

日医かかりつけ医機能研修制度

【目的】

今後のさらなる少子高齢社会を見据え、地域住民から信頼される「かかりつけ医機能」のあるべき姿を評価し、その能力を維持・向上するための研修を実施する。

【実施主体】

本研修制度の実施を希望する都道府県医師会

平成28年4月1日より実施

【かかりつけ医機能】

1. 患者中心の医療の実践
2. 継続性を重視した医療の実践
3. チーム医療、多職種連携の実践
4. 社会的な保健・医療・介護・福祉活動の実践
5. 地域の特性に応じた医療の実践
6. 在宅医療の実践



【研修内容】

基本研修

日医生涯教育認定証の取得。

応用研修

日医が行う中央研修、関連する他の研修会、および都道府県・郡市区医師会が主催する研修等の受講。

規定の座学研修を10単位以上取得

実地研修

社会的な保健・医療・介護・福祉活動、在宅医療、地域連携活動等の実践。

規定の活動を2つ以上実施（10単位以上取得）

3年間で上記要件を満たした場合、都道府県医師会より修了証書または認定証の発行（有効期間3年）。

日医かかりつけ医機能研修制度 現在の進捗状況(令和7年7月7日現在)

応用研修受講者数(延べ人数) 合計: 72,244名

第1期	H28年度受講者:	9,391名	(研修開催回数: 日医中央研修1回、22都道府県42回)	第1期 合計: 29,712 名
	H29年度受講者:	9,712名	(研修開催回数: 日医中央研修1回、27都道府県47回)	
	H30年度受講者:	10,609名	(研修開催回数: 日医中央研修1回、31都道府県46回)	
第2期	R元年度受講者:	9,361名	(研修開催回数: 日医中央研修1回、30都道府県53回)	第2期 合計: 22,228 名
	R2年度受講者:	6,571名	(研修開催回数: 43都道府県138回 ※日医中央研修未開催)	
	R3年度受講者:	6,296名	(研修開催回数: 日医中央研修3回、26都道府県68回)	
第3期	R4年度受講者:	6,618名	(研修開催回数: 日医中央研修3回、27都道府県56回)	第3期 合計: 20,304 名
	R5年度受講者:	6,381名	(研修開催回数: 日医中央研修3回、23都道府県54回)	
	R6年度受講者:	7,305名	(研修開催回数: 日医中央研修3回、28都道府県76回)	

修了者数 認定期間有効実人数(R4~6年度): 4,298名 累計: 15,490名

R4年度修了者: 1,386名 R5年度修了者: 1,584名 R6年度修了者: 1,328名

日医かかりつけ医機能研修制度 令和6年度応用研修会

日医かかりつけ医機能研修制度 令和6年度応用研修会 プログラム

(60分)

応用研修 1-9 : 1 単位、生涯教育 CC76:1 単位

1. かかりつけ医の糖尿病管理

鈴木 亮 (東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 主任教授)

(60分)

応用研修 2-9 : 1 単位、生涯教育 CC10:1 単位

2. 栄養や口腔におけるかかりつけ医との連携

西岡 心大 (一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 栄養管理室 室長)
渡邊 裕 (北海道大学大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室 准教授)

(60分)

応用研修 3-9 : 1 単位、生涯教育 CC75:1 単位

3. かかりつけ医の脂質異常症管理

吉田 博 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 病院長・教授)

(60分)

応用研修 4-9 : 1 単位、生涯教育 CC13:1 単位

4. リハビリテーションにおける医療と介護の連携

三上 幸夫 (広島大学病院 リハビリテーション科 教授)

(60分)

応用研修 5-9 : 1 単位、生涯教育 CC29:1 単位

5. 認知症の方への意思決定支援とプライマリケア

田中 志子 (医療法人大誠会内田病院 理事長・院長)

(60分)

応用研修 6-9 : 1 単位、生涯教育 CC74:1 単位

6. かかりつけ医の高血圧症管理

大屋 祐輔 (琉球大学病院 病院長)

※内容等が変更となる場合があります。

(令和 6. 7. 29 現在)

○令和6年度は、日本医師会として3回実施。(全6講義)

- ・9月1日(日) 集合研修
- ・10月6日(日) Web研修
- ・11月4日(月・振休) Web研修

○令和6年度は、認知症に関して、以下の講義を設けた。

・第5講義 「意思決定支援とプライマリケア」

講師: 田中 志子先生

(医療法人大誠会内田病院 理事長・院長)

○講義では、認知症基本法施行を受け、認知症に関する基礎知識、環境調整の重要性、意思決定支援の実践方法、そして認知症の方の思いに触れる大切さについて解説していただいた。

○日本医師会として開催する他、都道府県医師会等においても、開催した。

日医かかりつけ医機能研修制度 令和7年度応用研修会

日医かかりつけ医機能研修制度 令和7年度応用研修会 第1回 プログラム

日 時：9月21日（日）10:00～17:25
場 所：日本医師会「大講堂」
同時中継：都道府県医師会座学受講会場

10:00	開会挨拶	日本医師会長 松本吉郎
10:05	講義	
10:05～11:05 (60分)	1. 肝臓病の診断と治療 「日常診療で見逃さない肝臓病の重要ポイント」 竹原 徹郎（独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院 病院長）	応用研修 1-10：1単位、生涯教育 CC82:1単位
	<休憩 5分>	
11:10～12:10 (60分)	2. 慢性腎臓病（CKD）の診断と治療 「かかりつけ医における CKD 診療のポイント」 成田 一衛（新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター センター長）	応用研修 2-10：1単位、生涯教育 CC73:1単位
	< 昼食休憩 55分 >	
13:05～14:05 (60分)	3. 高齢者肺炎の治療と多職種連携 海老原 寛（東北大学大学院 医学系研究科 臨床障害学分野 教授）	応用研修 3-10：1単位、生涯教育 CC15:1単位
	<休憩 5分>	
14:10～15:10 (60分)	4. かかりつけ医に必要な骨粗鬆症への対応 「診断のコツと治療の実際 ～骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2025 もふまえて～」 井上 大輔（帝京大学ちば総合医療センター 病院長、第三内科学講座主任教授（内分泌代謝））	応用研修 4-10：1単位、生涯教育 CC77:1単位
	<休憩 5分>	
15:15～16:15 (60分)	5. かかりつけ医とリハビリテーションの連携 木下 翔司（東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座 講師）	応用研修 5-10：1単位、生涯教育 CC19:1単位
	<休憩 5分>	
16:20～17:20 (60分)	6. 事例検討～在宅医療における連携／認知症を含むマルチモビディティへの取組～ 「在宅医療における連携」(30分) 織田 正道（社会医療法人祐愛会 織田病院 理事長） 「認知症を含むマルチモビディティへの取組」(30分) 近藤 敬太（藤田医科大学 連携地域医療学助教、 豊田地域医療センター総合診療科 在宅医療支援センター長）	応用研修 6-10：1単位、生涯教育 CC80:1単位
17:20	閉会挨拶	
17:25	閉会	

※内容等が変更となる場合があります。

（令和7.8.14現在）

○令和7年度は、日本医師会として3回実施。（全6講義）

- ・9月21日（日） 集合研修
- ・10月19日（日） Web研修
- ・11月3日（月・祝） Web研修

○令和7年度は、認知症に関して、以下の講義を予定している。

・第6講義

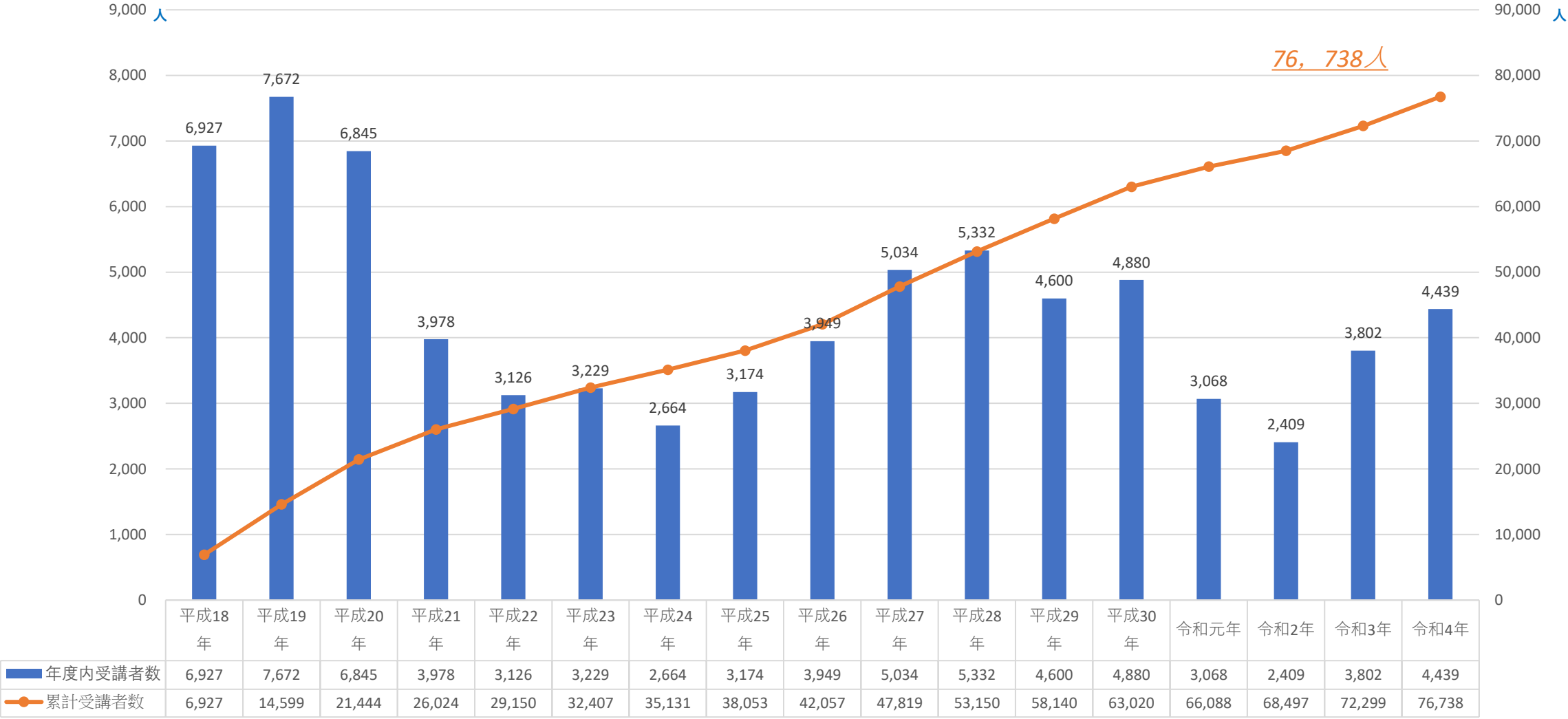
「6. 事例検討 認知症を含むマルチモビディティへの取組～」

講師：近藤 敬太 先生

（藤田医科大学 連携地域医療学 助教、豊田地域医療センター総合診療科 在宅医療支援センター長）

○日本医師会として開催する他、都道府県医師会等においても、開催予定。

かかりつけ医認知症対応力向上研修 受講者数の推移

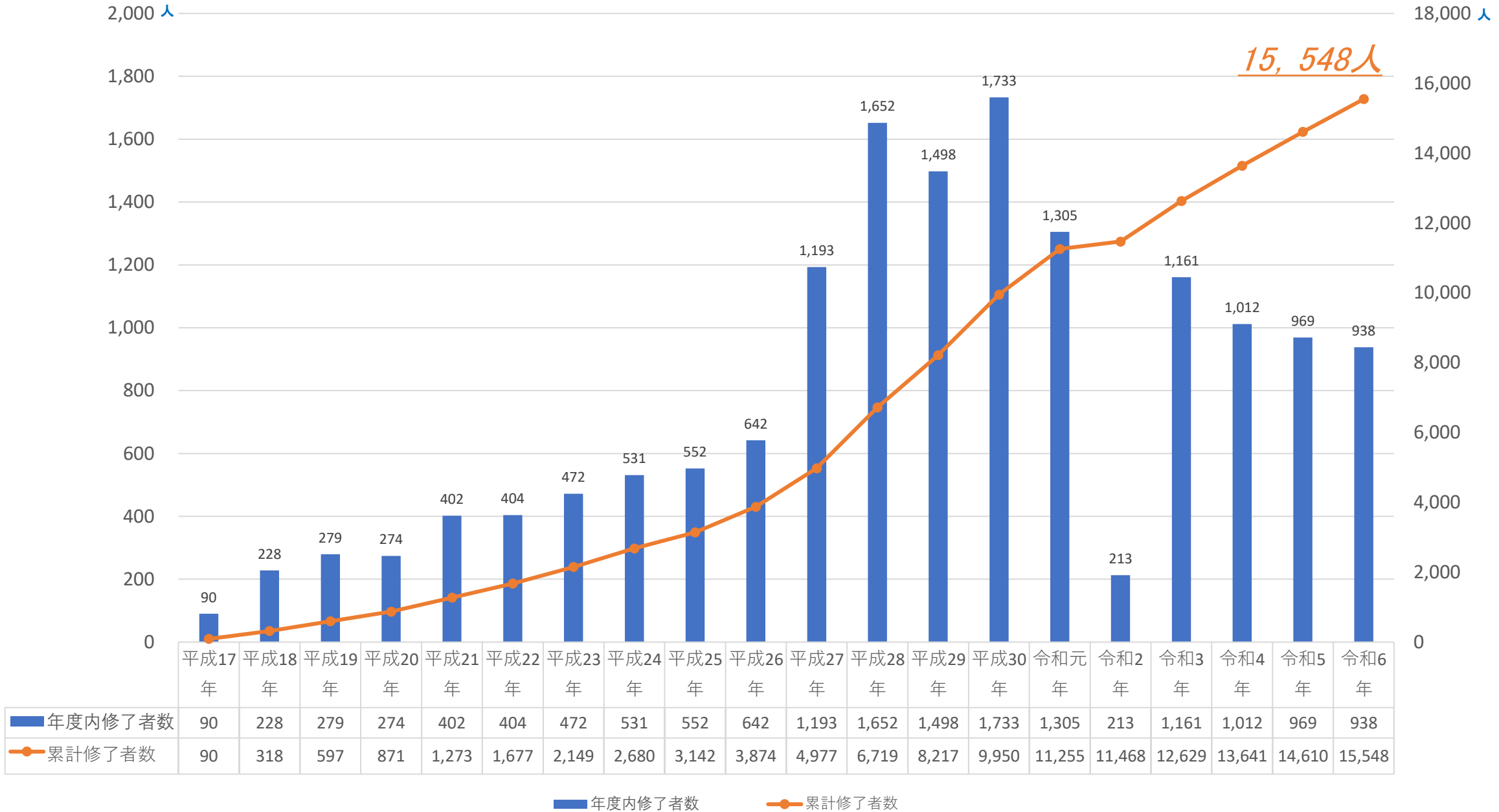


※ 1 平成18年度から、かかりつけ医認知症対応力向上研修を実施

※ 2 表中には、各年度の各都道府県・指定都市報告値の計を記載。随時、各都道府県・指定都市報告値を修正しているため、修了者数累計は表中各年度の合計と一致しない。

出典：厚生労働省公表資料、内閣官房認知症施策推進大綱実施状況概況資料を元に日本医師会作成

認知症サポート医養成研修 修了者数の推移



出典：国立長寿医療研究センター公表資料、内閣官房認知症施策推進大綱実施状況概況資料を元に日本医師会作成

地域に根差した医師の活動

地域に根差して診療している医師は、自院での診療以外に、以下のような活動を連携して行い、地域住民の健康を守るため、それぞれの地域を面として支えています。

そうした活動はかかりつけ医が中心となって担っており、地域医師会はそれに深く関与して運営しています。

日本医師会は、「地域にどっぷりつきり」、日々地域医療を支えている医師に深く感謝するとともに、こうした活動を国民の皆さんに広く知っていただきたいと思います。

1. 地域の時間外・救急対応	平日夜間・休日輪番業務、地域行事の救護班、在宅当番医、平日夜間急患センター、電話相談業務など（災害時には救護所・避難所への巡回診療、感染症拡大時には検査センターへの出務など自らの地域を守る活動）
2. 行政・医師会等の公益活動	行政等（国・都道府県・保健所・市区町村・自治会等）の委員、医師会・専門医会の委員、警察業務への協力、防災会議、地域医療に関する会議、レセプトの審査委員会、地域ケア会議の出席、障害者認定審査会、介護保険認定審査会など
3. 地域保健・公衆衛生活動	母子保健、乳幼児保健（1歳6か月児健診・3歳児健診）、学校保健（学校健診、学校医活動）、学校健康教育（性教育、がん教育、禁煙・薬物教育等）、産業保健（地域産業保健センター活動、職場の健康相談、産業医活動）、健診（特定健診・特定保健指導・VDT健診等）、高齢者保健（高齢者健診・認知症検診）、予防接種（定期・その他）、がん・成人病検診、市民公開講座（健康講座・介護教室）、精神保健、健康スポーツ医活動など
4. 多職種連携	訪問診療等の在宅医療ネットワークへの参画、介護保険関連文書の作成（主治医意見書等）、多職種との会合（ケアカンファレンス等）、ACPなど
5. その他	看護師・准看護師養成所、医学部等における地域医療等についての講義・講演、医師会共同利用施設への参画、高齢者の運転免許に関する診断書の作成、成年後見人制度における診断書の作成、死体検案、医療DX（地域医療情報連携ネットワーク等への参画等）、医療GX（医療機関等における温室効果ガス削減等の取組等）、論文執筆等の学術活動、高齢者・障害者施設への対応、地域における症例研究（J-DOME等）など

令和6・7年度日本医師会地域包括ケア推進委員会

日本医師会長諮問

「地域包括ケアシステムにおけるかかりつけ医の役割」

- ・上記諮問について、令和6・7年度の2年にわたり、検討しているところ。
- ・委員は、全国8ブロックから推薦された医師および有識者として指名した医師により構成されている。
- ・かかりつけ医は、診療以外に社会的機能として、各地域におけるニーズに応じて、多職種連携等に取り組んでいる
- ・答申は、令和8年6月頃までにとりまとめる予定。